

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495100455		
法人名	医療法人社団初心会		
事業所名	グループホーム ひじり ユニット名 1F青葉通り		
所在地	仙台市青葉区八幡6丁目8-26		
自己評価作成日	令和 元年 9月10日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 元年 10月 25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様が、安心かつ思い通り暮らしていけるような自由な雰囲気環境をつくり、一人一人の出来る事を職員で見出し、生活の中での役割や、生きがい、頼りにされるうれしさを感じて頂くよう支援していきます。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは広瀬川沿いで、対岸に山居沢水力発電所のある森を望む、閑静な住宅地にある。地区内には、同医療法人の「杜のホスピタル・あおば」があり、以前から地域とは関わりがあることで、昨年度の開設時から町内会に加入している。運営推進会議で地域住民代表から、非常時を想定した「合同炊き出し訓練」の提案がある等、交流が盛んである。ホームの理念「自立と尊厳を尊重し、安心した生活を」は、入居者の「出来ることの継続、得意なことをしてもらう」を意識して介護に取り組んでいる。職員の提案で「ハンバーガーを食す会」や「イタリアンを楽しむ会」が催されている等、入居者の明るい笑顔に溢れているホームである。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 医療法人社団初心会グループホームひじり)「ユニット名 青葉通り」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者1人1人の自立と尊厳を最優先にし、安心して暮らして頂けるよう、入居者に寄り添うような介護を心掛けています。	理念を事務所内に掲示し、ミーティング時に確認して職員間で共有している。入居者の得意な習字や知識をみんなの前で披露してもらい、自信や誇りを持ち続けられるような支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内会の総会や防災訓練等に参加させて頂いております。ひじりの花火大会への参加もお知らせし、今年は見学にいらっしました。	町内会の清掃活動や草刈りに参加している。ホームの行事や運営推進会議にも地域住民の出席があり提案もある。夜間は暗く人通りの少ない地域に、ホームの灯りが地域住民に喜ばれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	イベントや日頃、入居者と散歩をするなどしたときに地域の方々との触れ合いを通じ理解を得ていると思います。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長様、民生委員様、地域包括支援センターの方、入居者様とご家族様を招き、行っております。意見がある時はサービス向上の為、取り入れていきます。	地域包括職員が毎回出席し、年6回開催している。地域からは「合同炊き出し訓練」の提案があり検討している。会議では報告事項に留まらず、ヒヤリハット事例の検討の場にするのが望ましい等の提案があった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	仙台市集団指導や八幡連携の会にも参加しております。	仙台市主催の看取りに関する研修会や、グループホームのレクリエーションの勉強会に参加している。医療や介護に関する勉強会や情報の収集の場「八幡連携の会」にも参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当法人では身体拘束をしないのですが、さらに施設内研修を通し、スタッフ全員に周知しております。	職員はそれぞれの入居者の外出傾向を把握している。ホールの出入り口のドアは、入居者は自分の意志で、開けられないようになっているが、安全を確保しつつ、不自由さを感じないように、職員がドアの開閉に気を配っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や施設内研修に参加し、スタッフ全員に周知し防止を徹底しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、必要であれば家族、事業所と話し合いを行い対応してまいります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、ケアマネージャーとで御家族様への説明は行っております。入居されるご本人ともお会いし、安心して頂けるよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の要望を取り入れたメニューを作ったり、趣味に合わせた外出企画等、ホームでの生活も楽しいと思って頂けるよう取り組んでいます。	意見箱を設置したが、意見は殆んど無い。家族の要望や意見は面会時に聞くようにしている。家族の要望で水虫対策等があり、手足の清潔を第一に日常的な予防に留意している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に意見、提案は受け付けております。改善すべきことは迅速に対応し、働きやすい職場を心掛けています。	職員同士のコミュニケーションが良く取れている。玄関の「すのこ」の設置や「ハンバーガーを食す会」等に職員の要望が反映されている。職員は自分の提案の具現化が業務の励みにもなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフとのコミュニケーションを常に取り、それぞれの能力を認めて、その方の必要性を伝えます。仕事への向上心や、やりがいに繋がると思っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修以外のスキルアップ研修にも積極的に参加を促し、実施しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出来る限り勉強会などに参加するようにはしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	普段から何気ない会話の中で、1人1人とコミュニケーションを図り、不安や要望を取り入れるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族側も、馴染みのない人間に自分の家族を預ける不安もあると思います。面会時等に家族様と話し、要望は出来る限り取り入れるよう努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居されて早い段階で御本人が必要としているサービスを見極める為に、スタッフ同士が密に情報交換を行っております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の暮らしに寄り添うようなアットホームな雰囲気グループホームを心掛けておりますし、実践しております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様ともお話しし、ホームでの様子や体調等をお伝えすると共に、入居者様ともゆっくりと関わって頂けるようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々を共に暮らすことで、馴染みの関係が出来ています。楽しく安心して暮らしていけるよう支援しています。	入居前の本人の生活環境などは、職員間で共有している。習字の得意な入居者が先生になって、習字教室を開催している。定期的に来訪する床屋や、ホームの職員や仲間が馴染みの関係になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の関係性も気に掛けて、フロアの席も考えております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	御相談の受付は今後しますとお伝えします。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の思いを大切に考え、ユニットのスタッフで随時話し合いをし、御本人の意向を取り入れてよりその方らしい生活を提供できるようにしております。	日々の暮らしの中で言葉や表情から、本人の意向を汲み取っている。家族から本人の思いを聞き、職員で話し合っている。当日に着る洋服を本人に選んでもらう等、入居者の思いを大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査時にこれまでの生活歴やどのような暮らしをしていたか等を聞き取り、入居後にも御家族との情報交換をしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンスを通し、スタッフ全員で把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーを中心に御本人や家族、スタッフと話し合い、介護計画を作成しています。	月に1度は入居者や家族の意向を確認している。状況や効果等の評価に基づいて計画の見直しを行っている。車イスの入居者に、「立位する」を目標に盛り込み、トイレでの排泄につながった入居者もいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づいた事を介護記録に残し、最善のケアが出来るように心掛けています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常にその方にとって必要なことは何かを考え、柔軟に支援していきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	どのような事が支援できるのかを他の事業所の相談員とも検討し、支援を行っていきます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2階の往診以外にも医療的な相談を行い、医療法人ならではの素早い対処を心掛けています。	全員が同法人の「杜のホスピタル・あおば」の往診を受けている。歯科等を受診する入居者は家族が同伴している。家族にはホームでの様子を口頭で伝え、受診結果は家族からの報告を記録している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とかかりつけ医の連携で安心して暮らして頂けるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換を行い、関係づくりに努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設では今のところ見取ったケースはないのですが、見取の研修を取り入れ、家族の希望等も取り入れていきます。	ホームは医療連携体制が確立していることで、開設当初より、看取りが出来ることを明文化している。入居時より家族にも説明して確認している。重度化が予想される時は段階的に家族や関係者で話し合い、家族の判断により、対応するとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応については意見交換を行っていきます。実践的な対応が出来るよう訓練も取り入れていきます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的実施しております。町内会の防災訓練にも参加しております。	夜間想定を含め、年2回の避難訓練を実施している。火災発生時は風向きを考慮して2カ所の避難場所を確保している。水害時は浸水を想定し、同法人の「杜のホスピタル・あおば」を避難場所としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の尊厳を尊重し、日々のケアを行っています。	居室に入るときは、必ず本人の承諾を得て行っている。声掛けは名前や苗字に「さん付け」で、馴れ合いにならないようにしている。職員は、居室を間違える入居者に注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションを大切にし、その中から思いを汲み取り、柔軟に支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活のペースを最優先にしております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人でお化粧をされる方もいらっしゃいますし、それ以外にもスタッフによるアロママッサージやネイルケアも取り入れております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みや形状にも対応したメニューを提供しています。食事準備や片付けも入居者様と共に行っております。	献立の作成と調理は職員が行っており、栄養バランスについては栄養士に相談している。季節に合わせて栗御飯や筍御飯をしたり、「ハンバーガーを食す会」等をしている。回転寿司の外出に出かけることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量を記録に残し、全スタッフで情報共有し、対応を考えています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを行い、介助が必要な方に関しては介助をして生活を保っています。訪問歯科診療もとりいれ、専門家からの助言もスタッフで情報共有しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツを使用している方でも、日中は排泄パターンに合わせてトイレ誘導を実施。	オムツをしている入居者は4名である。排泄チェック表による、排泄パターンを把握して、声掛けによるトイレ誘導をしている。入居時は車イスでオムツであったが、トイレでの排泄に改善した方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ヨーグルトなどの乳酸菌を摂取して頂いたり、食物繊維豊富な食事を提供するなどして排便を促しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴剤でお湯に色と香りをつけたり、職員との会話で楽しんで頂いております。時間帯も入浴者の意向になるべく浴えるようにしています。	週2回から3回の入浴をしている。季節に合わせて、菖蒲湯や柚子湯を楽しむこともある。入浴時は入居者の思いや本音の話が聞ける機会でもある。入浴拒否の入居者には声掛けを工夫し対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に合わせて、休憩や睡眠をとっていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情ファイルを作成し、スタッフが全員観覧出来るようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の興味のあるものを活動に取り入れれたり、家事の手伝いなど、生活の中での役割や当てにされる喜びを感じて頂けるようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出企画を立てて外出するほか、買い物に付き合ってもらったり、近所の散歩も天候をみて実施しています。	季節ごとに外出の年間行事が計画されている。定義山参拝、東照宮での花見、秋保の紅葉狩り等のドライブやレストランでの外食を楽しんでいる。プロ野球観戦で東北楽天の応援と一緒に出かけられることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と一緒に買い物に出かけた際、お金を個人のお小遣いから支払っていただく事もあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様からの要望がある時は支援します。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの壁飾りなどを入居者にも手伝っていただき作成、掲示しています。	開設1年余りのホームは、新築で明るく綺麗である。1日の大半を過ごすホールでは、椅子に腰掛けた時に、床に足を踏ん張ることで、脚力と姿勢、咀嚼力の改善に良いと、入居者の体格に合わせた高さの、職員手作りの「足置き台」が用意されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士を同テーブルにするなどの対応はしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ち込んで頂いたり、御本人が落ち着く空間が作れるよう、御家族にも協力をして頂きながら、スタッフ間でも工夫しています。	居室のベッドとクローゼット、エアコンは備え付けである。家族の写真や勉強机等、馴染みの物を持ち込んでいる。クローゼットの鏡付きの扉は「姿見」になっていて、入居者は毎日、身嗜みを整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様それぞれが出来る事をお手伝いして頂き、自信をもって暮らしていけるよう支援します。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495100455		
法人名	医療法人社団 初心会		
事業所名	グループホーム ひじり	ユニット名	定禅寺通り
所在地	仙台市青葉区八幡6-8-26		
自己評価作成日	令和 1 年 9 月 17 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 1 年 10 月 25 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の生活の中では入居者様自身が出来る事を率先して行って下さっております。スポーツ観戦、ドライブ、食事会など入居者様と職員と一緒に楽しめる機会を設けながら生活を送っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは広瀬川沿いで、対岸に山居沢水力発電所のある森を望む、閑静な住宅地にある。地区内には、同医療法人の「杜のホスピタル・あおば」があり、以前から地域とは関わりがあることで、昨年度の開設時から町内会に加入している。運営推進会議で地域住民代表から、非常時を想定した「合同炊き出し訓練」の提案がある等、交流が盛んである。ホームの理念「自立と尊厳を尊重し、安心した生活を」は、入居者の「出来ることの継続、得意なことをしてもらおう」を意識して介護に取り組んでいる。職員の提案で「ハンバーガーを食す会」や「イタリアンを楽しむ会」が催されている等、入居者の明るい笑顔に溢れているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 医療法人社団初心会グループホームひじり)「ユニット名 2階定禅寺通り 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を共有し実践につなげています。	理念を事務所内に掲示し、ミーティング時に確認して職員間で共有している。入居者の得意な習字や知識をみんなの前で披露してもらい、自信や誇りを持ち続けられるような支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	花火大会を設けて、ひじりの事を知っていたく機会を設けています。	町内会の清掃活動や草刈りに参加している。ホームの行事や運営推進会議にも地域住民の出席があり提案もある。夜間は暗く人通りの少ない地域に、ホームの灯りが地域住民に喜ばれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご近所の散歩や、イベントに参加していただいたり認知症の方たちへの理解を得ていると思います。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では普段の生活の様子、イベントの様子、アクシデントの報告を行っています。	地域包括職員が毎回出席し、年6回開催している。地域からは「合同炊き出し訓練」の提案があり検討している。会議では報告事項に留まらず、ヒヤリハット事例の検討の場にするのが望ましい等の提案があった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	仙台市の研修会や実地指導を通して疑問の解消やケアの向上に取り組んでいます。	仙台市主催の看取りに関する研修会や、グループホームのレクリエーションの勉強会に参加している。医療や介護に関する勉強会や情報の収集の場「八幡連携の会」にも参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修などを通して身体拘束をしない事を共通認識としてケアに取り組んでおります。	職員はそれぞれの入居者の外出傾向を把握している。ホールの出入り口のドアは、入居者は自分の意志で、開けられないようになっているが、安全を確保しつつ、不自由さを感じないように、職員がドアの開閉に気を配っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	何が虐待になるのか職員同士で話し合い、不適切なケアについての検討も行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が研修会に参加し学ぶ機会を持っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明を行い家族へは連絡を入れ疑問の解決をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や意見箱を設置しており、家族様の意見を取り入れております。	意見箱を設置したが、意見は殆んど無い。家族の要望や意見は面会時に聞くようにしている。家族の要望で水虫対策等があり、手足の清潔を第一に日常的な予防に留意している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議にて意見を出してもらっています。	職員同士のコミュニケーションが良く取れている。玄関の「すのこ」の設置や「ハンバーガーを食す会」等に職員の要望が反映されている。職員は自分の提案の具現化が業務の励みにもなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の業績を認める事や、体調の変化に気を配っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、外部研修の参加をした後に講師役となり他職員へも伝達し、知識や技術の向上を図っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修などを通し他の事業所との繋がり場を設けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	しっかりと向き合い不安や要望に耳を傾けて信頼関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	積極的に声を掛けながら、不安や要望を聞いて信頼関係に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	観察を行うことで何が必要か見極めを行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ作業を一緒にすることで関係性を築いていけるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の誕生日に家族様の参加も呼びかけ関係性を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	急な外出や面会にも極力対応できるようにしながら支援に努めています。	入居前の本人の生活環境などは、職員間で共有している。習字の得意な入居者が先生になって、習字教室を開催している。定期的に来訪する床屋や、ホームの職員や仲間が馴染みの関係になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人1人を尊重し、孤立しない関係づくりを支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談は随時受け付けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや考えを聞き取り、何が必要なかを把握できるように関係づくりを進めています。	日々の暮らしの中で言葉や表情から、本人の意向を汲み取っている。家族から本人の思いを聞き、職員で話し合っている。当日に着る洋服を本人に選んでもらう等、入居者の思いを大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族にお聞きしたりして情報を収集しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	観察や出来る事、挑戦することで、何をどこまでどのようにできるのかを現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様本人の意向を取り入れ現状に即した介護計画を策定できるように目指しています。	月に1度は入居者や家族の意向を確認している。状況や効果等の評価に基づいて計画の見直しを行っている。車イスの入居者に、「立位する」を目標に盛り込み、トイレでの排泄につながった入居者もいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	観察や申送りを利用、情報の共有を通して介護計画の見直しにつなげています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれの入居者のニーズに合わせた柔軟な対応を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	精神保健福祉士や相談員、地域包括支援センターの方たちと連絡、相談を行い連携を図り支援に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医へ細目に報告や相談を行い情報共有をしていき医療面での不安を解消しています。	全員が同法人の「社のホスピタル・あおば」の往診を受けている。歯科等を受診する入居者は家族が同伴している。家族にはホームでの様子を口頭で伝え、受診結果は家族からの報告を記録している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現場の看護職員、往診の看護職へ報告、相談を行い適切な看護が受け入れられるよう支援していきます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と連携を取り入院中の経過や退院へ向けての相談を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化の方針を確認。その時の状況に合わせて家族と話し合いを行っています。	ホームは医療連携体制が確立していることで、開設当初より、看取りが出来ることを明文化している。入居時より家族にも説明して確認している。重度化が予想される時は段階的に家族や関係者で話し合い、家族の判断により、対応するとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、緊急時の対応の訓練を行って実践力を高めて行きたいと思えます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防避難訓練を行い、避難方法の確認と消防設備の取り扱いを確認しています。	夜間想定を含め、年2回の避難訓練を実施している。火災発生時は風向きを考慮して2カ所の避難場所を確保している。水害時は浸水を想定し、同法人の「社のホスピタル・あおば」を避難場所としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりの尊厳を尊重しケアにあたるように努めています。	居室に入るときは、必ず本人の承諾を得て行っている。声掛けは名前や苗字に「さん付け」で、馴れ合いにならないようにしている。職員は、居室を間違える入居者に注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様一人ひとりの要望をお聞きしたりして思いを決定できるように働きかけを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりの生活のペースを大切にしながら支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ネイルケアやお化粧をしていただき、気持ちも若く保っていただけるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けやリンゴの皮むきなど能力に応じて手伝っていただいたり、好みのメニューをお聞きし献立に役立てています。	献立の作成と調理は職員が行っており、栄養バランスについては栄養士に相談している。季節に合わせて栗御飯や筍御飯をしたり、「ハンバーガーを食す会」等をしている。回転寿司の夕食に出かけることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは毎日の食事量や水分量を記録し把握している。、病院の管理栄養士にも相談をして支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの支援をしています。訪問歯科からの助言をいただきながら口腔環境の改善を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツに頼らず、排泄の状況に合わせた誘導を行っています。	オムツをしている入居者は4名である。排泄チェック表による、排泄パターンを把握して、声掛けによるトイレ誘導をしている。入居時は車イスでオムツであったが、トイレでの排泄に改善した方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂っていただいたり、食物繊維を献立に取り入れています。運動を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来るだけご希望に応え、入浴を楽しんでいただいています。	週2回から3回の入浴をしている。季節に合わせて、菖蒲湯や柚子湯を楽しむこともある。入浴時は入居者の思いや本音の話が聞ける機会でもある。入浴拒否の入居者には声掛けを工夫し対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を大切に体調や希望に添って休めるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の変化がある時には随時説明を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴で趣味などを把握し、本人が出来る範囲での役割など確認しながら支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせての外出やご本人の希望を聞き対応をしています。	季節ごとに外出の年間行事が計画されている。定義山参拝、東照宮での花見、秋保の紅葉狩り等のドライブやレストランでの外食を楽しんでいる。プロ野球観戦で東北楽天の応援と一緒に出かけられることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と一緒に買い物などへ出かけています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をしたりしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾りつけや、献立で生活感や季節感を感じていただけるような対応をしています。	開設1年余りのホームは、新築で明るく綺麗である。1日の大半を過ごすホールでは、椅子に腰掛けた時に、床に足を踏ん張ることで、脚力と姿勢、咀嚼力の改善に良いと、入居者の体格に合わせた高さの、職員手作りの「足置き台」が用意されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様の状況を把握しながら思い思いに過ごせる空間作りが出来るように努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の馴染みの物を持参していただいたりと居心地よく過ごせる工夫をしています。	居室のベッドとクローゼット、エアコンは備え付けである。家族の写真や勉強机等、馴染みの物を持ち込んでいる。クローゼットの鏡付きの扉は「姿見」になっていて、入居者は毎日、身嗜みを整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様が安全に生活していただけるように支援をしていきます。		